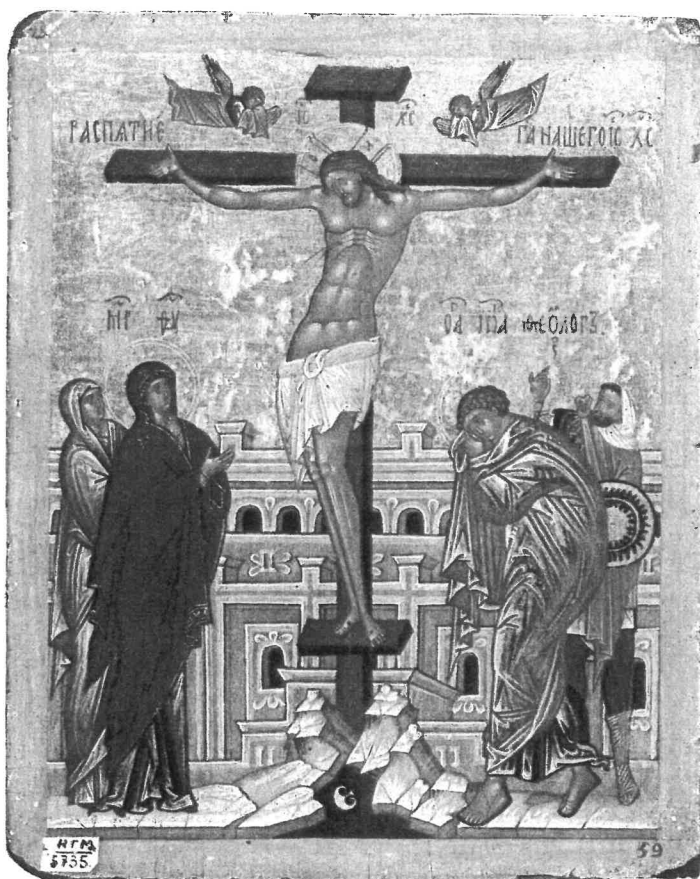


2010年(平成22)3月

カルメル 霊性センターニュース



「聖十字架」 15世紀末 ノブゴロド歴史博物館

3月

252号

DE IMITATIONE CHRISTI

キリストにならう

——バルバロ訳 ——



第一巻

第16章 他人の欠点を耐え忍ぶ

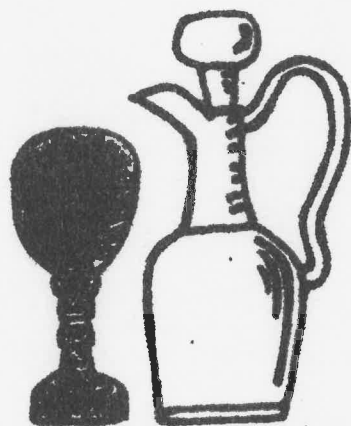
2 忍耐する人でありなさい

もしある人が、再度注意しても反省しないなら、口論を避けなさい。悪を善に変える神に、すべてを任せなさい。それは神のしもべのうちに、そのみ旨と光栄とがあらわされるためである。他人の欠点や短所を耐え忍ぶように努めなさい。なぜならあなたにも、他人に耐え忍んでもらわなければならない多くの欠点があるからである。自分で自分を思いのままにすることもできないのに、どうして他人をあなたの思いのままにすることができるであろう？ 私たちは他人に完全であってほしいと願うが、自分自身の欠点を直そうとはしない。

3 同じはかり

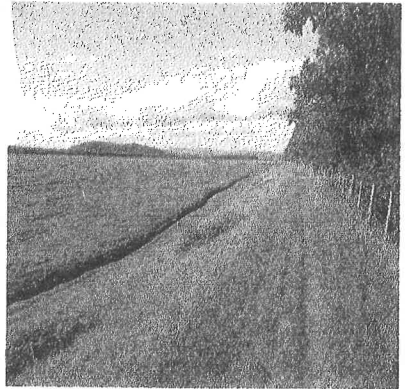
私たちは、他人が厳しくとがめられることを望むが、自分がとがめられることは望まない。私たちは他人が自由にふるまえないことを喜ぶが、自分の要求が拒否されることは望まない。私たちは多くの規則によって他人が束縛されることを望むが、自分の自由が束縛されることは絶対に耐えられない。それは、他人を自分と同じはかりで計ることが、いかにまれであるかを証明する。私たち皆がすでに完徳に達しているならば、神の愛のために、他人の何を耐え忍ぶことがあろうか？

心の泉



何も 神にいうことがないのですか？
何か 困ったことがあるのですか？

神に 力をたびたび願ってください
神は 十二分に
あなたに答えてくださるでしょう
ご自身を
与えてくださるでしょう



—幼きイエスのマリー・エウジェンヌ神父 ocd

灰の水曜日ではじまった四旬節・・・、典礼は着実にイエスの受難へ向かっています。日々の生活ではとかく学年末、年度末の様々な行事、活動の中で周辺の物事に気をとられてしまいがちです。わたしたちをあがなうためにエルサレムへ向かうイエスに「神へ向かう姿勢」を学びたいものです。

主よ

もし あなたがわたしのところにこられなかったら
わたしは存在していません。

もし わたしを生み イエスにおいて生まれ変えてくださらなかったら
わたしはあなたと出会えませんでした。

もし あなたがわたしと出会うために来てくださらなかったら

主よ わたしはあなたと出会えませんでした。

主よ 度々私はあなたを忘れましたが

わたしが準備できるまで あなたは待ってくださいました。

もし わたしが迷っても あなたを見出せるように
わたしを 呼んでください。

あなたがわたしとともにいてくださることによって

わたしを真の自分自身に立ち直らせてください。 *

伊徒 信子

ノートルダム・ド・ヴィ

* 『神と親しく生きる いのりの道』より
聖母の騎士社、2009

物の豊かさ

九里 彰

それからパパラギは、私たちのことについてこうも言っている。「きみたちは貧しく不幸せだ。きみたちには、多くの援助と同情が必要だ。きみたちは何も物を持っていないではないか」。

(『パパラギ —はじめて文明を見た南海の酋長ツイアビの演説集—』より)

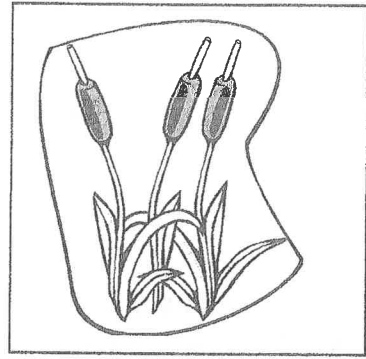
現代人は、文明の進歩によって多くの物を所有することができるようになった。快適で何不自由ない生活が、一般庶民にも可能になった。大量生産、大量消費の世界は、その意味ではまことに喜ばしいことなのだが、それによって私たちが物を粗末にし、物の有難さを忘れてしまうという弊害も引き起こしている。

また会社は大量生産した物を売りさばくために、マスコミを使って、宣伝広告を大々的に行う。コマーシャルは実に巧妙に人々の心をとらえ、購買意欲をそそる。その結果、大衆はあたかも催眠術にかかったかのように、我先にその商品へと殺到する。スポーツや音楽や娯楽に関しても、似たり寄つたりのことが起きているように思われる。

ウボル島（西サモア）のティアベアの酋長ツイアビは、第一次大戦前の西ヨーロッパを視察し、驚くべきほど鋭い文明批評を行なった。パパラギとは、サモア語でヨーロッパ人のことで、彼らの文明の危うさ、闇を見抜いたのである。

たくさんの島々の愛する兄弟たちよ。物とは何か。おまえたちに告げよう。…物にはふたつの種類がある。ひとつはヤシの実や貝やバナナのように、私たち人間が何の苦労も労働もせず、あの大いなる心が造り出す物である。いまひとつは、指輪や食事の皿やハエたたきのように、たくさんの人間が苦労し、労働をして作り出す物である。アライ（紳士）が言う物とは、彼が自分の手で作った、人間が作った物のことであり、私たちが何も持っていないと言われるのは、こうした物のことである。しかし大いなる心が造り出す物について、アライはひと言も言えるはずはない。そう、いったいだれが私たちより豊かで、だれが大いなる心の造り出した物を、私たちよりたくさん持っているだろう。…物がたくさんなければ暮らしてゆけないのは、貧しいからだ。大いなる心によって造られたもの物が乏しいからだ。パパラギは貧しい。だから物に憑かれている。物なしにはもう生きてゆけない。…少ししか物を持たないパパラギは、自分のことを貧しいと言って悲しがる。食事の鉢のほかは何も持たなくても、私たちならだれでも、歌を歌って笑顔でいられるのに、パパラギの中にそんな人間はひとりもいない。(同上)

ヘンリ・ナーウエンの 旅路の糧 (130)



市場での静かな場所

「静まれ、わたしを神と知れ」(詩 46 : 10)。これは、私たちが忙しい生活の中でたずさえてゆくべき言葉です。静けさと言うと、騒々しい世界とは対照的なものと考えられるかもしれません。けれどもおそらくそれ以上のものを考えることができます。つまり、仕事をしたり、教えたり、工事現場で働いたり、音楽を作ったり、会議を行なっている時でさえ、内的な静けさを保つことができるのです。

「市場」で静かな場所を確保することは、重要です。この静かな場所に、神は住まい、私たちに語りかけるからです。それはまた、私たちが忙しい毎日において出会うすべての人々に、いやすような仕方で話すことができる場でもあります。この静かな場所がないならば、私たちは堂々巡りを始めることでしょう。あまり説明せずに取り乱して走り回り、人々に無理な仕事を強いるようになるでしょう。けれどもこの静けさがあるならば、神は、私たちが考えたり、言ったり、行なったりするどんな時でも、やさしく私たちを導いてくれるのです。

(0320)

柔軟性の徳

木は野原の葦と比べれば、強く見えます。しかし嵐が来ると、木は根こぎにされるのに対し、野の葦は風にゆらゆら揺られながらも、根はついたままで、嵐がおさまると再びすくっと立ちます。

柔軟性は、偉大な徳です。私たちが自分の立場にしがみつき、他人の考えや行動によって私たちの心が少しゆらゆら動かされるのをいとうならば、私たちは簡単に折れてしまうでしょう。野原の葦のようであることは、優柔不断となることではありません。それは、その時の風に少し動かされながら、その間も、大地にしっかりと根をおろし続けているのです。新しい問題に対してユーモアのない激しく独断的な厳格さは、精神を破壊し、私たちに厳しい人間にしてしまうかもしれません。私たちは柔軟でありつつ、深く大地に根をおろしましょう。

(0316)

(九里 彰訳)

年間 第6主日 (C)

「貧しいあなたがたは幸いである、

神の国はあなたがたのものである」

(ルカ6:17、20~26)

ルカはこの山上の垂訓のことばをキリスト信者に対する社会的、宗教的迫害の時期に書きました。迫害は非常にひどくキリスト信者であると告白する人は誰でも自分の家族から否認され、友人たちから拒絶され、シナゴグから除外されると分かっていました。相続の権利を失いさえました。たとえ土地をたくさん持っていたても、キリストへの信仰を宣言するやいなや自動的に貧困に陥りました。キリストは、彼らが何を失ってもそれら全てを後の命において取り戻すから彼らを祝福されていると呼びました。しかし、イエスはこうもおっしゃいます、「富んでいるあなたがたは不幸である、あなたがたはすでに慰めを受けている」。私たちがこの世的な価値に心をとめるならば、それらを得るでしょうが、それは私たちがすでに得ているものであってそれ以上のものではありません。

実際的にいえば貧困それ自体は祝福ではなく不幸です。事実、ルカの山上の垂訓で述べられている要因——貧困、飢え、涙を流すこと、憎しみ、排斥——これらは皆不幸です。これらは善い両親が自分の子供のために望むものではありません。神がこれらのものを神の子供である私たちのために望むわけではありません。私たちは、最後の山上の垂訓の終わりに付け加えられている重要な言葉、「人間の息子のために」に目をとめるならば、ルカの山上の垂訓の言葉を理解することができます。私たちは単にむだに苦しむわけではありません。私たちは人生であらゆる試練を受けます、神への私たちの愛の行いとして人々に奉仕したいからです。

ある作家が言っています：「世界で一番貧しい人はお金を持っていない人ではありません。世界で一番貧しい人はビジョンを持っていない人です。人生に夢や、目標や、目的を持っていないならば、あなたは決して神の祝福や、苦しみの真っ只中での愛や、人生の試練を見いださないでしょう」。精神的に貧しいことは神の助けやあわれみに飢えていることです。すでに富んでいる人はイエスに従いませんでした（彼らはすでに全てを持っていると思うからです）、ですから彼らはどのようにイエスがパンを増やしたか、どのように病人を治したか、盲人を直したかを見損ないました。彼らは奇跡やイエスの教えから恩恵を得ませんでした、メシヤの必要性を感じないからです。ソクラテスは言います、「知識探求の第一段階は、私たちは皆何も知らないということを知ることです」。同様のことが聖性への探求についても当てはまります。祝福され、聖でありたいならば、私たちは皆罪人であり貧しい者であり、常に神のあわれみとゆるしに飢えているという事実を悟るべきです。

(Sr. Paulina)

編集の手違いで、2月号に掲載できなかった「みことばのひびき・年間第6主日」分を掲載致します。読者・著者・訳者の皆様に、大変ご迷惑をおかけいたしました。

四旬節第三主日 ルカ 13, 1-9

「あなたがたも悔い改めなければ、皆同じように滅びる」(ルカ 13, 3. 5)。

このお言葉が二回繰り返されていることから、今日の福音の焦点が、ここにあることは明瞭です。この語句が、「・・・と(あなたがたは)思うのか。決してそうではない。あなたがたに言うておく」に導かれて始まっているのは意義深いと思います。と言いますのは、イエスが、信心深く、また道徳的である善良な一般の人々の常識的、伝統的な判断では到達し得ない知恵、イエスだけが指摘し、獲得する可能性を開く命に至る知恵を語り始める前置きとして使用される「はっきり言うておく(ア-ソ ロ^o ヒュミ-ソ)」(ルカ 4, 24; 12, 37; 18, 17. 29; 21, 32; 23, 24)に通じるものだからです。それで、この語句に導かれる言葉には、わたしたちの慣れ親しんだ慣習的な理解の仕方を超えて、イエスが言おうとしておられる深い新しい意味を読み取る必要があります。そのような単語の一つが、今日の「悔い改め」という用語なのです。

「悔い改め」は、ギリシヤ語では「メタノイア」と言い、「後悔」を意味していると言われています。また、よく似た単語に「立ち帰り」があります。これはヘブライ語の「シュブ」に相当し、七十人訳聖書のギリシヤ語では「メタノイア」ではなく別の単語で訳出されるものです。それで、「悔い改め、メタノイア」は、単に「立ち帰り」ではないと、わたしは思うのです。「ルカによる福音」第十五章の放蕩息子が取った転換、自分のいるべき家から迷い出たこと後悔し、歩んでいる道を方向転換して父の家に戻る、無論これも含まれますが、これに尽きるものではない、と考えています。出発点に戻る、つまり過去に戻ることに以上に、未来志向といたしますか、それまでは意識にも上らなかった新しい観点、次元に気づかされ、その新しさ(ひょっとすると、それまでは気付かなかっただけではなく、存在していなかったのかも知れませんが)、その新しさに向けて前進し始める、これが、イエスが言おうとされる悔い改め、メタノイアではないでしょうか。既存の善悪の基準に従って、悪かったことを悔やみ、改善すると言ったことにとどまるのではなく、イエスがもたらす新しさ、人間を救い完成するイエスの善悪の基準、価値判断に飛躍し、真実な人間となって行くことなのです。日ごとに、イエスが、わたしたちの前に切り開く悔い改めの道、この愛、いのちに向かって進む道を歩み続けられますように。

ルカ渡辺幹夫

***** みことばのひびき ***

四旬節 第4主日

「父のところでは、あんなに大勢の雇い人に、

食べ物があり余っているのに」 (ルカ15:1~3、11~32)

本日、教会は私たちに放蕩息子の譬え話について黙想するようにすすめています。一人の息子が父親に自分の相続財産を求めたこと、息子が自分のお金を全部放蕩や快楽に使い果たしたこと、また最後に自分の過ちについて後悔の気持ちを抱いて父親のところに戻ってきた時のことです。

この放蕩息子は自分の父親がどういう人であるか分かっています！ 息子は父親が家中の全ての人に善良でやさしい人であることを知っています。息子は様々な機会に自分も父のやさしさを経験していますから、父がやさしい人であると分かっています。そして、息子は「父のところでは、あんなに大勢の雇い人に、食べ物があり余っている」ことを思い出します！ 私たちもまた、様々な機会に私たちに対する神のやさしさとあわれみ深さを経験しています。私たちもまた、神の霊の働きの中で、それを思い出します！ 神が私たちの生涯を通して与えてくださる贈り物は、私たちに対するたくさんの神のやさしさと愛のサインです。そして一生の間に私たちの魂に蒔かれる神の言葉であるかのように、それらを思い出そうとすることができるように聖霊はそこにおいてになります。

しかし、放蕩息子は父親がどういう人であるか本当には知りません。普通には分かっていたのですが、完全な考えではありませんでした。彼は外国に住んでいて家から遠く離れていましたし、お金は良いものですが過ぎ去ったものを現在にもたらし出すことが出来るだけで、現在を現在そのものにするには出来ません。放蕩息子は、過去の父親の姿を思い出しますが、現在の父親のことを想像出来ません。自分を離れていった息子のことを心配し、息子が家に戻ってくるのを待ち望んでいるということを想像出来ません。放蕩息子は自分の父親のことを本当には知りません。息子が父について描いている姿は昔の、不完全な、本当ではない姿です。

私たちもまた、天の御父について正しい知識を持っていません。キリストは真にその霊を私たちにくださっています。私たちを天の御父の真の息子、キリストの神秘体の真のメンバーにしてくださる霊です。洗礼のときに聖霊を頂いてから、非常に多くの出来事が私たちの人生に起こっています。数多くの幸せな、あるいは不幸な出来事が起こっています。徳の高いおこないであったり、悪行であったり、罪であったりします。では、私たちの御父の真の姿はどのようなもののでしょうか？ 放蕩息子と同様に、私たちは家に戻ったときにだけ、天におられる御父の家に戻ったときにだけ、そのことが分かるでしょう！

家に戻りましょう！ 心の底から神に祈るために自分自身の中に入りましょう。信仰の目でそこに天国の扉を発見するために自分の魂の中に入っていきましょう。イエスといっしょにそこにとどまりましょう！ ご聖体を頂くとき私たちの中にいらっしゃるイエスを崇拝しましょう。イエスのやさしさ全てに感謝しましょう。特に私たちの中にいらっしゃるイエスの現存に感謝しましょう。イエスの中においてになる御父の真の御顔を発見するようにマリア様に御助けを願いましょう。

四旬節第五主日C ヨハネ8, 1-11

「わたしもあなたを罪に定めない。

行きなさい。これからは、もう罪を犯してはならない」(ヨハネ8, 11)。

今日の福音の該当箇所は、多くの学者が、本来は、マタイ、あるいは、ルカの福音書の一部であり、錯簡で、「ヨハネによる福音」の「あなたがたは肉に従って裁くが、わたしはだれをも裁かない」(8, 15)、あるいは、「その方が来れば、罪について、義について、また、裁きについて、世の誤りを明らかにする」(16, 8)を説明する証例としてここに挿入されたと推定しています。ある人たちは、「民衆は皆、話を聞こうとして、神殿の境内にいるイエスの元に朝早くから集まってきた」(ルカ 21, 38)の後にこの部分があり、それに続いて、「過越し祭と言われている除酵祭が近づいていた。祭司長たちや律法学者たちは、イエスを殺すにはどうしたらよいかと考えていた」(ルカ 22, 1-2)があったとします。そうしますと、この箇所には、イエス殺害に律法学者やファリサイ人を決定的に動かした動因が見えてくるのです。あるいは、他の人たちのように、「もし『わたしが求めるものは憐れみであって、いけにえではない』と言う言葉の意味を知っていれば、あなたたちは罪もない人たちをとがめなかったであろう」(マタイ 12, 7)に続くものであったとすると、律法の言葉を真実に解釈する方としてのイエスに焦点を当てているといえましょう。

山上の説教でイエスは言われました。「言っておくが、あなたがたの義が律法学者やファリサイ派の人々の義にまさっていなければ、あなたがたは決して天の国に入ることができない」(マタイ 5, 20)。「律法学者やファリサイ派の人々の義にまさる義」とは何でしょうか。神により与えられた律法の語句を人間の善悪の判断力で測れる限りの厳格さ、厳密さで遵守することから来るのでしょうか。人間の理解力が、限界があり、根本的には罪に汚染されているものであることを忘れ、それに頼って字句を厳密に遵守しようとするならば、誤った結論に達するのではないのでしょうか。「文字は殺しますが、霊は生かします」(2コリント 3, 6)。神の律法は、人間を個人としても、また、共同体としても生かすものです。律法を無視するのでもなく、また、その文字を厳守する義でもなく、神が律法を通して求めておられる全次元の人間を生かすことを求める、ここに義があるのではないのでしょうか。「わたしもあなたを罪に定めない。・・・もう罪を犯してはならない」。

ルカ 渡辺 幹夫

枝の主日 (ルカ 22:14-23:56)

今日から聖週間が始まります。この日教会はキリストがエルサレムに迎え入れられたことを祝います。それは主が過ぎ越しの神秘を全うなさるためです。キリストの苦しみ！歴史的な事実であり神のご計画による苦しみ！ここに枝の主日のメッセージの真髄があります。ルカは、主が御受難において奴隷のようになって、筆舌に尽くし難い苦しみに立ち向かい、それを引き受けられたと述べています。これらの事は全て御父から知らされていたことで、主はご自分の心を御父のみ旨に委ねます。

キリスト、苦しむ人。その苦しみは私たちの計り知ることが出来ないほどのものです。しかしその苦しみの最高の価値は何よりもキリストが特別の方であることに基づいています。三つの柱によって支えられているキリストの特質です：イエスは完全な人間であるから、その苦しみも欠ける所のない完全なものであること；イエスは神の御子であるから、イエスにおいて苦しむのは神ご自身であること；イエスはこの世と人類の贖い主であるから、苦しみを引き受けそれを神の救いの力によって一変させたこと。これがキリストの生涯において、特に受難と死において、その苦しみが歴史的な事実であると同様に神秘的な事である理由です。それは人々との連帯であり同時に罪びとの裁きと弁明でもあります。救いの神秘です。ルカの受難の記述は、私たちが手を取るようにして別の場でのキリストの苦しみ、その神秘を黙想するよう導きます。最後の晩餐でのユダの裏切り (ルカ 22:22)、イエスの苦しみをよそに行われた弟子たちの時機を失した議論、“自分たちのうちでだれがいちばん偉いだろうか” (ルカ 22-24)、ゲッセマネで、血の汗を流されるほどに苦しみ、悶えられたイエス、それは人類からまた最愛の御父から見捨てられた孤独と世の罪の重荷によるものです。ペトロの否み、不謹慎な兵士たちのあざけり、民の長からの侮辱、罪びととみなされたことによる聖なる苦しみ、その手と足に乱暴に打ち込まれた釘による体の苦しみなど、主の苦しみのうちに留まりましょう。キリスト、“苦しむ人、苦しむことに慣れている人”。キリストはその体と心のうちに全ての苦しみと悲しみを集めます、あたかも土の器の中に集め、納めるように。

キリストは苦しみの中で独りではありません。御父はゲッセマネのキリストに天使を送ります。苦しみを解くためではなく、慰めるために (ルカ 22:43)。カルワリオへの道では、“嘆き悲しむ婦人たちが大きな群れを成して、イエスに従った” (ルカ 23:27) のです。イエスの十字架の右にはよい泥棒がいて、左にいるもう一人を厳しく諫め、イエスの無罪を宣言します、“この方は何の悪いこともしていない”と。受難の間中イエスは御父に見捨てられたと感じます。しかし御父は真の親密な方法でイエスの傍らにおられたのです。だからイエスは死の直前に大声で叫びます、“父よ、わたしの霊を御手にゆだねます。”ルカはキリストの苦しみの勝利を、その結果であるキリストとの連帯を、息を引き取られた後の百人隊長の告白の中で告げています、“本当に、この人は正しい人だった”と。

(Sr. Paulina)

十字架の聖ヨハネ こぼれ話 (34)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

ベアス

バエサにいた時、彼はベアスの修道女たちを靈的に世話するためにしばしば出かけました。十字架のヘロニモ修士が彼のお供をした時、二人は、修道女たちが教会を作るために買っていた或る家に入りました。一瞥し、家の戸口を出ようとした時、左官たちは屋根をはがしていたところでした。ヘロニモ修士は、こう語っています。

「かなりの高さから一枚の瓦が落ちてきて、私の頭に当たり、粉々になりました。神父は前を歩いていて、私はこう叫びました。

『おお、神父様、頭にけがをしました』。彼は戸口にあった岩にぶつかったと思い、私の言葉を聞いて、急いで私の方にもどってきて、手で私の頭をさすり、こう言いました。『さあ、何でもないよ』。実際、血も出ておらず、思い出すと、その後も痛みを感じませんでした」。

何とすばらしい手、聖人の手、十字架のヨハネの手でしょう。でもまたヘロニモ修士の頭も何とすばらしいことでしょう。

ベアスとカルバリオの間

まだヘロニモ修士と一緒にです。二人は歩いて、ベアスからカルバリオへ行きました。低い丘の一つから一匹の非常に大きな犬、大きな雌犬が走ってきました。ヘロニモ修士の言葉では、「たけり狂ったその犬は私たちを食いちぎるかのように思われました。歩みを止めることなく、彼は私に言いました。『怖がってはいけないよ』。彼は犬のそばに行き、手を伸ばし、頭に置いて、なでながらこう言いました。

『さあ、もどきなさい』。その犬は服従を知っているかのように、ほえるのをやめ、急いでもどって行きました。私には、主の僕に従ったかのように思えました」。

聖フランシスコはグビオの街を凶暴な狼から解放したわけですが、この大きな雌犬が、その凶暴な狼の遠い親戚であるかは定かではありません。兄弟である狼が歳で死んだ時、町の人たちは、その狼のことから「聖フランシスコの徳と聖性を思い出して」泣いたと『小さき花』に出ていますが、もしかしたらその犬は、親戚かもしれませぬ。

心の天気予報

普段はあまり意識しないのに、だんだん歳を重ねてくると、人によって日常^道面したことに對して“こんな素晴らしいことは またと やってこないよね”とか、“こんなイヤなこと、一体いつまで続くんだろう”とか。これは心に隆起する感覚なのだ と意識せずに、晴れの気持になったり、かげりの気持ちになったりして、感覚に左右されている自分に気づかないことが多々あります。ここで、晴れの気持ちが長続きした方がいいのは、勿論なのですが、問題は低気圧が居座る時、心中を客観的に見ることが出来ないために、このマイナス感覚を、顔や体・行動に出してしまうことがあるのです。それによって周囲の人はどのような悪影響を蒙るのでしょうか？

その良い例が、“子供の駄々こね”です。これによって周囲にいる大人が、同じ空気に捕らわれてしまい、声を荒くして叱ったり、叩いたりしたのでは、全く逆効果になってしまいます。悲しさと怒りで（本人は自覚出来ないが）、逆に声を和らげて別な方に気持ちを向けるように誘導したり。つまり心の低気圧を取り去るために、その中で良かった点を挙げようとする、この緩和剤の効果が次第に挙がってくるのです。

では大人の私達は？ このことを初めが^ま終わりまで、全部一人です。

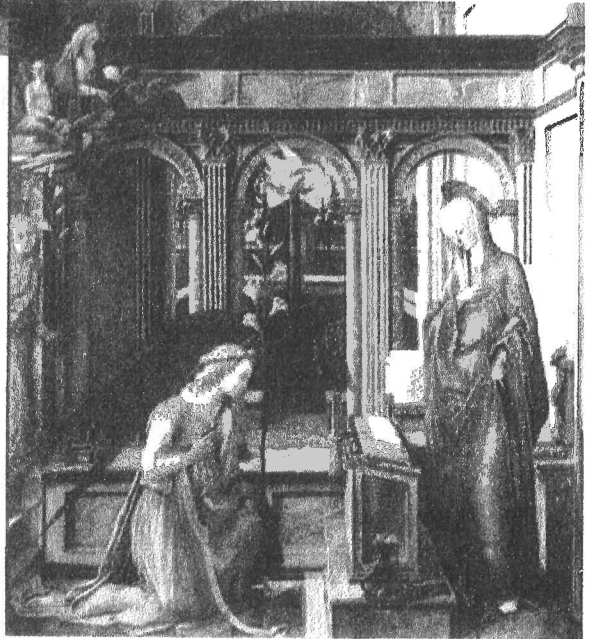
（他人の中では出来ないのに、一人になった時に）……

例えばあの人がかうしたから、私だって平和でいられないのだ、というような原因追及だけしていると、いい感覚はそれについてきません。だから、とに角、傷ついた自分の心の“ご機嫌をとる”ことを優先します。例えば電車の中で乗客が遠慮会釈なくドーンと腰かけてきて、自分の席が窮屈になってしまった！

途端に心の中で“あああ、折角いい気持で乗っていたのに、何てマナーのない人だろう”などと思えば思う程、隣の人が嫌になります。しかし隣の人、そんなことをツユほども感じない人なら、そんなことは平気なのです。それによって心が乱され、大騒ぎになった私だけがすべてを背負います。損な性格と思えばそれまでですが、この心の天気の様子の中で、“晴天”を感じ取っていける回数が増えていく人こそ心の成長は素晴らしく、それが自然的性格と正比例していくなれば、それこそ“熟年”と言えるようになるのではないのでしょうか。えらそんなことを言って、私自身も修業中なのですが……

お告げのフランシスコ姉妹会 S r. 熊田 照子

3月19日(金)
聖ヨゼフ(祭日)



3月25日(木)
神のお告げ(祭日)

今年の元旦は四国四万十川の河口で初日の出を迎えました。初日の出を見るためにわざわざ外へ出かけていくなどということは、長い人生に初めてのことです。

南国四国には珍しいという雪が数日前から降っていて、元旦も地面にはうっすらと積雪があり、空からは花びらのような雪片がひらひらと舞い降り、気温は零下という寒さでした。防寒の出で立ち怠りなく、まだ明けやらぬ暗いうちにホテルからバスで現地に向かったのですが、そこには早くもたくさんの車が並び、大勢の人が集まっていました。

太平洋からの日の出地点のあたりには、生憎もくもくと雲が立ち込め、周りからも心配の音が上がっていたのですが、やがて、日の出の前ぶれというのでしょうか暗闇の世界は徐々に柔らかな明るさを帯びてきました。立ち並ぶ人々の目の前で、雲は時間を追ってあたかも天女の羽衣のように繊細に染め分けられてたなびきます。薄い赤み、紫がかかった赤み、煙のようにかすむ色、色彩、形、輝きは、やむことなく移ろい、豊かな暁の陰影を作りつつ夢のような美しさで悠々とひろがりました。それは天上の楽の音、天女たちのさざめきがこの地上を覆うかのように感じられました。

嗚呼、これが夜明けなのだ。夜回りが暁を待つ夜明けなのだ。陶然たる気持ちというのか、忘我というのか、私は全ての境界を失うかの深い一体感に包まれました。

その時、突如として60年以上も前のひとつの光景が幻の如く立ち現われました。

幼い私がいて・・母が編んだ新しいセーターを着せられて・・傍らの父が「淳子はトキイロが似合うね」と云ったこと・・。トキイロという難しい言葉が温かさをともなう幼い胸の底に落ちたこと・・。長じて、利休鼠、臙脂色、瑠璃色、といった類とともに鴉色を知ったこと・・。

天空の雲は 今 鴉色に染まったのです。輝きを増す世界のただ中に立ち私自身も鴉色に染まりつつ、夢幻能のように亡き父と母を偲びました。

拍手の音にふと我に返ると周囲に歓声が上がっていました。雲と雲の間に太陽がその姿を現したのです。光り色、輝き色と呼びたい真っ赤なまん丸でした。三島由紀夫の小説に知った至上の言葉を借りれば『日輪は赫奕と昇った』のです。

人々の息を詰める感嘆と、合わせられる掌と、・・・これでいい　これでいい
という深い肯定感が支配する満ちみてる静謐の平安でした。

帰宅して、ハワイに在住する中学生の孫に電話で日の出の話をしました。
「すごかったよ　きれいだったよ」「みんな感激していたよ」とつぶさに情景を
語って聞かせました。　孫はじっときいていてこう云ったのです。

「ねえ　おばあちゃん　夕日が沈むのとどっちがいい？」
これを聞いた瞬間の気持ちをどう言い表わしたらいいのでしょうか。　不意の
衝撃を受けて一瞬言葉を失いました。　意表を突かれたという単純なものでは
なく、もっと深いところの深部にショックを受けたのです。

何を問いかけられたのでしょうか。　何が不意の衝撃となったのでしょうか。

ハワイのサンセットは格別の美しさであり、沈む夕日にこめるハワイ独自の
意味合いもあるといいます。　孫はきっと自分が見る美しい沈む夕日を想って
素直にどっちがいいときいたのでしょうか。　しかし、私にとっては生まれるのと
死ぬのとどっちがいいのと問われた感じだったと云えばいいのでしょうか。

これは、地球は丸いというような話ではありません。　生まれることなく
死ぬことなく、死ぬということは必ず生まれているということ。

お父さんとお母さんとどっちが好き？　父と子と聖霊とどれが好き？
ここには「どっちがいい？」「どれが好き？」という問いかけ自体が不能となる
ような、神秘の絶対性ともいべきものが在ることを感じつつ「どっちがいい
って云えないねえ　両方ちょうど同じだよ」と私はやっと声を出しました。

しかし、どこかで、否こんなことではないのだ　ちょうど同じだよなどと
安易なものではないのだ　本当のところには届き得ていないのだというもどか
しい苦しさを残すのです。

いのちの言葉 2月

わたしは門である。わたしを通過して入る者は救われる。
その人は、門を出入りして牧草を見つける。
(ヨハネ 10・9)

このみ言葉の中で、イエスは、一つの民が受けた聖なる約束と彼らの期待を実現する者として、ご自身を示しておられます。この民の歴史全体には、彼らの神と結んだ不変の契約が、はっきりと見てとれます。

イエスが用いられた次のたとえを見てみると、「門」の意味がよくわかります。「わたしは道である。わたしを通らなければ、だれも父のもとに行くことはできない」¹というみ言葉です。本当にイエスは、一つの道でおられ、御父、神ご自身に向かって開かれた門です。

わたしは門である。わたしを通過して入る者は救われる。その人は、門を出入りして牧草を見つける。

このみ言葉は、私たちの生活にとって、具体的にはどんな意味があるのでしょうか。

福音の中には、今月のみ言葉に関連する箇所が他にもたくさんありますが、ここでは、「狭い門」のたとえを取り上げてみましょう。苦労してでも、命に通じる狭い門から入るように、という

教え²です。

多くのたとえの中から、なぜこの「狭い門」を取り上げるかといえば、イエスがご自身について語られた真理に私たちが最も近づけるものであり、その真理を生きるため、私たちが最も照らしてくれるものだと思うからです。

イエスが、三位一体に向かって完全に開かれた門となられたのは、いつでしょうか。天の門がイエスに対して閉ざされたように見える瞬間、イエスは私たち皆にとって、天の門となりました。

見捨てられたイエス³は、門となられ、これによって、神と人類との完全な交わりが成就したのです。つまり、イエスは御自分が無となって、御父と神の子みなを、一つに結んでくださったのです。イエスの無（門の空間の部分）ゆえに、人は神と結ばれ、神は人と結ばれました。

ですから、イエスは狭い門であると同時に、開け放たれた門でもあります。私たちはこれを経験することができるでしょう。

² マタイ 7・13 参照

³ マルコ 15・34 およびマタイ 27・46

¹ ヨハネ 14・6 参照

わたしは門である。わたしを
入る者は救われる。その人は、
門を出入して牧草を見つける。

イエスは見捨てられた瞬間、私
たちのために、御父への入り口
となってくださいました。

こうしてイエスはご自分の部分
を果たされました。しかし、
大きな恵みを活かすには、私
たち一人ひとりも、自分にゆ
だねられた小さな部分を果た
す必要があります。すなわち、
イエスという門に近づき、そ
こを通過して向こう側に行く
ことですが、そのためには、
どうすればいいのでしょうか。

落胆する時、トラウマや予期せ
ぬ災難に遭う時、思いもしない
病気になる時、私たちはいつも、
イエスの苦しみを思い起こす
ことができるでしょう。こうした
試練、また他のあらゆる苦し
みも、イエスは完全にご自分
のものとされました。

そうです。苦しみの味わいを
持つすべてのことの中には、
イエスがおられます。私たち
の苦しみ一つひとつを、イエ
スと呼ぶことができるでしょう。

生活のあらゆる困難や苦境、
暗闇、自分や他の人に起こる
悲慘な出来事、周囲の人々の
苦しみの中に、イエスの姿を
認めましょう。苦しみはすべ
て、イエスです。イエスは、
あらゆる苦しみをご自分のも
のとされたからです。

イエスに向かい、信仰をもっ
て言いましょう。「主よ、あ
なたにまさる善はない」⁴と。
また、貧しい人や不幸な人の
内におられる「イエスの苦し
み」をやわらげるため、具体
的に何かしてみ

ましょう。

その時、私たちは門を通過し
、向こう側に行き、経験した
ことのない喜び、満ち満ちた
新たないのちを見出すこと
でしよう。

キアラ・ルービック

★ フォコラーレの創立者キアラ・
ルービックが2008年に掃天し
た後、彼女が過去に残したも
のを「いのちの言葉」として
取り上げています。今月の言
葉は、1999年3月25日にイ
タリアのフォコラーレの雑誌
Citta Nuovaに発表されたも
のです。

★ いのちの言葉は聖書の言葉
を黙想し、生活の中で実践す
るための助けとして、書かれ
たものです。

連絡先

フォコラーレ:

03-3707-4018/03-5370-6424

E-mail:tokyofocfem@ybb.ne.jp

ホームページ: [フォコラーレ](#)で検索

<http://www.geocities.jp/focolarejapan/focolaresito>

⁴ 詩編 16・2 参照

冬日のみ影静かなり幾年かこやせし妻の床敷のあと

冬日影物なき室を照し居りこやりし妻は此世にはなし

西田幾多郎 寸心

伊藤宏見 著 「西田幾多郎 心象の歌」より著者の許可を得て掲載

カルメル会の企画案内



2010年

カルメル会四旬節講話シリーズ

テーマ：父よ、すべての人をひとつにしてください

—司祭職と私たち—

場所：カトリック上野毛教会聖堂（東急大井町線上野毛駅下車徒歩7分）
世田谷区上野毛2-14-25 カルメル修道会（TEL 03-3704-2171）

日時：下記の各日曜日 午後二時半開始 入場無料（講話の後、主日のミサ）

2月21日（日） 中川博道（カルメル修道会司祭）
「司祭であるキリスト」

2月28日（日） 森一弘（東京教区司教）
「教会のいのちの源泉としての信徒」

3月7日（日） 松田浩一（カルメル修道会司祭）
「司祭とアヴィラの聖テレジア」

3月14日（日） 九里 彰（カルメル修道会司祭）
「魂の牧者 十字架の聖ヨハネ」

3月21日（日） ベアトリス・デクンハ（カルメル宣教修道女会）
「司祭の愛と共にある小テレジア」

上野毛霊性センター '10年2月~'11年3月黙想企画 ** 聖テレジア修道院 (黙想) **

1. 一泊聖書深読 新井延和神父

2009年 (09年は、土曜日 夕食~日曜日16時)

⑦ 2010/ 2月27日~28日

2010年 (毎回金曜日 夕食~土曜日16時)

- ① 4月 9日~10日
- ② 6月 18日~19日
- ③ 9月 10日~11日
- ④ 11月 12日~13日

※2010年は、上述日程での深読黙想(指導:新井延和神父)となります。

2. 奉獻生活者のための黙想会

2010年

| | | |
|---|--------------------------|--------|
| A | 7月20日(火) 夕食~7月29日(木) 朝 | 松田浩一神父 |
| B | 7月31日(土) 夕食~8月 9日(月) 朝 | 福田正範神父 |
| C | 8月11日(水) 夕食~8月20日(水) 朝 | 中川博道神父 |
| D | 11月 2日(火) 夕食~11月11日(木) 朝 | 福田正範神父 |
| E | 12月27日(土) 夕食~ 1月 5日(水) 朝 | 中川博道神父 |

3. 木曜黙想会 (毎回木曜日 10時~16時)

2010年間共通テーマ 《道》

| | | |
|-------|-----------------|--------|
| 4月22日 | 神の愛に包まれる道 | 松田浩一神父 |
| 6月17日 | 主よ、あなたの道を教えて下さい | 福田正範神父 |

(次ページへ)

| | | |
|--------|---------------|---------|
| 9月16日 | 真福八端を生きるイエスの道 | 今泉 健神父 |
| 11月18日 | 神の国への道 | ベルナルド神父 |
| 1月20日 | 荒野をゆく道 | 中川博道神父 |

4. 金曜黙想会 カルメルの聖人 (毎回金曜日 10時~16時)

2010年度

| | | |
|-------------|-------------|---------|
| 5月21日 | 三位一体のエリザベット | 福田正範神父 |
| 7月 9日 | カルメル山の聖母 | ベルナルド神父 |
| 10月29日 | アピラの聖テレジア | 福田正範神父 |
| 12月17日 | リジューの聖テレジア | 今泉 健神父 |
| 2011/ 2月25日 | 十字架の聖ヨハネ | 中川博道神父 |

5. 「社会人のための心の休息」—日常のキリスト教霊性を求めて—

(毎回金曜日 20時~ 土曜日 15時) 新しい企画

松田浩一神父

2009年度

⑧ 2月26日(金)~27日(土)

※①~⑦ 終了

2010年度

- ① 4月23日(金)~24日(土)
- ② 5月14日(金)~15日(土)
- ③ 6月25日(金)~26日(土)
- ④ 7月 9日(金)~10日(土)

尚、この企画は社会人(働いている人)の霊的・心的修養とキリスト者の召命を目的として、霊的同伴・霊的指導を中心にしながら、行っていきます。金曜日の仕事帰りにも気軽に参加してください。参加希望者は、前日の木曜日迄に、聖テレジア修道院に申し込んでください。

6. 青年黙想会 (男女) 中川博道神父・神学生

5月22日(土) 16時 ~23日(日) 16時
11月20日(土) 16時 ~23日(火) 14時

7. 召命黙想会 (男女) 中川博道神父・神学生

10月9日(土) 16時 ~ 11日(月) 16時

8. 祭日のミサに与かるために

【聖週間を祈る】・・チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時
聖木曜日から復活祭まで通して参加可能です。またどの曜日からでも参加可能。

2010 4月1日(木)~4日(日) 《講話なし、各食事つき》

【クリスマス】・・チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

2010 12月24日(金)~25日(土) 《講話なし、夕食なし》

9. 特別黙想会 伊従信子NDV テーマ:「私は神を見たい」

5月28日(金) 20時~30日(日) 16時 (28日は夕食を済ませてご参加ください)

10月15日(金) 20時~17日(日) 16時 (15日は夕食を済ませてご参加ください)

10. 待降節黙想会

2010/12月 3日(金) 夕食なし~5日(日) 昼まで 指導:カルメル会士



電話でのお問い合わせは午前9時から午後4時45分までをお願いします。
 またお申し込みは電話でもお受けしますが、間違いを避け、時間も問いません
 のでなるべくFAX・はがき・Eメールでお願い致します(お返事はいたします)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

聖テレジア修道院(黙想)

TEL 03-5706-7355

FAX 03-3704-1764

e-mail:mokusou@carmel-monastery.jp



「カルメルの靈性に親しむ」

—カルメルの靈性をとおして イエスとの出会いの道を探します—

担当：中川 博道 (カルメル修道会)

どなたでも いつからでもご参加ください

2010年 予定表

場所：カトリック上野毛教会 (信徒会館)

朝のクラス (火曜日)

夜のクラス (金曜日)

《10:30~12:00》

《19:15~20:45》

| | |
|---------------|---------|
| 2010年 1月19日 了 | 了 1月22日 |
| 2月23日 了 | 2月26日 |
| 3月9日 | 3月12日 |
| 4月13日 | 4月16日 |
| 5月18日 | 5月21日 |
| 6月15日 | 6月18日 |
| 7月6日 | 7月2日 |

<お問い合わせ：carmel-reisei@hotmail.co.jp>

木曜黙想会・2010テーマ「道」

「神の愛に包まれる道」



対 象: どなたでも
日 時: 4月22日(木) 10時～16時
場 所: カルメル会聖テレジア修道院(黙想)
担 当: 松田浩一 神父
会 費: 3,500円

お申込みは下記〈聖テレジア修道院(黙想)〉へお願い致します。

カルメル会聖テレジア修道院(黙想)
158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25
電話 03(5706)7355
FAX 03(3704)1764
Email: mokusou@carmel-monastery.jp

金曜黙想会・カルメルの聖人

「三位一体のエリザベット」

神はわたしのうちに、わたしは神のうちに

日 時：2010年5月21日（金）

10:00~16:00

指 導：福田 正範師（カルメル会司祭）

場 所：上野毛聖テレジア修道院（黙想の家）

会 費：¥3500（昼食付）



『社会人(働いている人)のための心の休息』

— 日常のキリスト教霊性を求めて —

日々、現代社会で忙しく働いている皆様、この静かな一時を提供する企画です。この一泊の企画は、キリスト者の霊的・心的修養を目的として、霊的同伴・霊的指導を中心としながら、皆様のお手伝いをします。

【内容】

- この企画は、個人的霊的修養でもありますので、一般的な講話はありません。
- 各人の信仰からの日常生活を見つめる視点(霊的理解)を促進しますので、この静かな一時の中で短い個別同伴(一人30分)を行います。
- メソッドの一つとしてコーチングを適用して、参加者一人ひとりの視点を尊重します。
- キリスト者としてのパーソナルな統合はキリストのうちに行為されるものですので、信仰・希望・愛を培い、この三つの対神徳をベースにおいて行います。

【参加者人数】 6人

【開催日】

- ② 2月26日(金)～27日(土)
- ③ 4月23日(金)～24日(土)
- ④ 5月14日(金)～15日(土)
- ⑤ 6月24日(金)～26日(土)
- ⑥ 7月 9日(金)～10日(土)

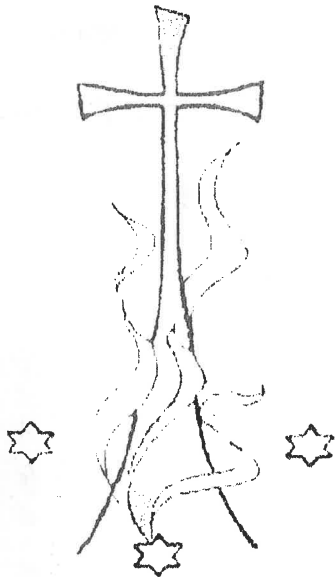
① 終了

(毎回金曜日 20時(夕食なし)～土曜日 15時)

【参加費】 各回 5,000円

【霊的同伴】 松田浩一神父(カルメル会士)

【申込み方法】 参加希望者は、前日の木曜日 16:45迄に、下記の聖テレジア修道院(黙想)へ FAX、はがき、Eメールで申し込んでください。



〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25
 カルメル会上野毛聖テレジア修道院(黙想)
 Tel 03-5706-7355、Fax 03-3704-1764
 E-Mail:mokusou@carmel-monastery.jp

聖書深読黙想会

〈一泊〉

聖書は、いろいろな方法で読むことができます。
指定された主のみ言葉を、幾人かと共に読み、それを互いに分かち合います。
聖霊の照らしを受けながら、自分に語られる主のみ言葉を深く味わい、共に交わる人々と、お互いに心を養う機会としましょう。神と人に心を開くことは、福音を生きることです。皆様のご参加をお待ちしています。

- * 日時：2010年 4月 9日（土）18時～10日（日）16時
- * 場所：カルメル会聖テレジア修道院黙想・黙想の家
- * 指導：新井延和師（カルメル会司祭）
- * 会費：¥7000
- * 持ち物：筆記用具、洗面用具、パジャマ

（タオル、バスタオルは、各部屋に備えあります）

聖書、祈りの本は、黙想の家にあります。



参考書：「聖書深読法の生いたち」（奥村一郎著 ¥1050）

ご希望の方は、黙想の家でお求め下さい。



お問合せ・お申込は、TEL. FAX、ハガキにてお願いします。

〒158-0093 世田谷区上野毛 2-14-25

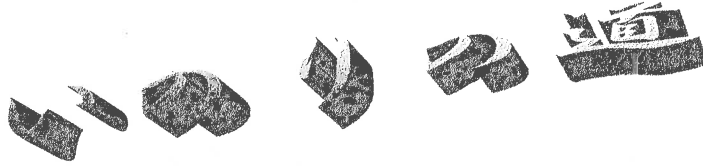
カルメル会聖テレジア修道院(黙想)

Tel.03-5706-7355

Fax.03-3704-1764

特別黙想会 《わたしは神をみたい》

神と親しく生きる



2010年5月28日（金）20時～30日（日）15時

日々のあらゆるわずらわしさから離れ、

しばらく神のみ前に立ち止ってみませんか？

ゆきなれた路の

なつかしく

耐えられぬように

わたしの いのりのみちを

つくりたい

— 八木重吉 —



- 指 導： 伊従 信子 （ノートルダム・ド・ヴィ会員）
- 持参品： 新約聖書（黙想の家にも備えあります）
『神と親しく生きる いのりの道』 マリー・エウジェンヌ ocd 著、聖母文庫
（黙想の家で購入できます）
筆記用具、洗面用具、パジャマ（タオル、バスタオル石鹸など備えあります）
- 参加費： ￥12000
- 場 所： カルメル会上野毛聖テレジア修道院（黙想の家）
158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25 Tel 03-5706-7355
お問合せ： 電話03-5706-7355
お申込み： FAX.03-3704-1674 または、ハガキにてお願い致します。

「聖週間、祭日のミサにあずかるために」

個人黙想ご案内

聖週間の典礼、復活の主日のミサにあずかるため、黙想の家で静修の一時をお過ごしになりませんか。

2010年4月1日(木) 夕食～4日(日)朝食

- * 講話は、ありません。各人のテーマによる黙想
 チェック イン : 午後 3 時から入室可。
 チェックアウト : 午前 10 時 (復活の主日)
- * 費用 : 1泊 ¥5000 (3食付・1泊から参加可)
- * お問い合わせ、お申込み : **Tel.03-5706-7355** ・ **Fax.03-3704-1764**

上野毛・聖テレジア修道院 (黙想)

カトリック上野毛教会2010年 聖週間 ご案内

3月28日(日) 受難の主日(枝の主日)

4月 1日(木) 聖木曜日(主の晩餐)

典礼 19:~~00~~³⁰~

4月2日(金) 聖金曜日(主の受難) 大斎、小斎

十字架の道行き15:00~

典礼 19:~~00~~³⁰~ (十字架の崇敬と称賛)

4月3日(土) 聖土曜日

典礼 19:~~00~~³⁰~ 洗礼式

4月4日(日) 復活の主日

荘厳ミサ 10:30~ ミサ後祝会 ・ たまごの祝別(各ミサ後)

| |
|----------------------------------|
| ‘10年2月～‘10年12月まで 黙想会案内 (宇治カルメル会) |
|----------------------------------|

1. 聖書深読

一泊二日 (午後5時～午後4時)

3月 6日 (土) ～ 7日 (日)

九里 彰神父

一日 (午前10時から午後4時)

4月10日 (土)

渡辺幹夫神父

6月26日 (土)

新井延和神父

10月30日 (土)

九里 彰神父

12月11日 (土)

新井延和神父

2. 一般のための黙想

一泊二日 (午後5時～午後4時)

5月29日 (土) ～30日 (日)

互いに愛し合うこと

新井延和神父

7月10日 (土) ～11日 (日)

マリア 喜びの人

渡辺幹夫神父

9月25日 (土) ～26日 (日)

幼子の平和

九里 彰神父

11月20日 (土) ～21日 (日)

神の国が始まる

新井延和神父

六泊七日 (午後5時～午前9時) ※修道者も可能

4月29日 (木) ～5月5日 (水)

復活した主との出会い

九里 彰神父

3. 水曜黙想 (午前10時～午後4時)

3月24日 (水)

最後の晩餐

渡辺幹夫神父

4月21日 (水)

復活の喜び

アダミニ神父

5月12日 (水)

生きておられる主

九里 彰神父

6月 9日 (水)

司祭と聖体

渡辺幹夫神父

7月21日 (水)

カルメル山の聖母マリア

新井延和神父

9月15日 (水)

福音と共にキリストに従う道

Sr. ポーリン

10月13日 (水)

アビラの聖テレサ

アロイジオ神父

11月10日 (水)

三位一体のエリザベット

伊従信子師

12月15日 (水)

御言葉は人となった

九里 彰神父

4.四旬節の黙想（午後5時～午後4時）

3月13日（土）～3月14日（日）

新井延和神父

5.待降節黙想（午後5時～午後4時）

2010年12月 4日（土）～12月5日（日）

渡辺幹夫神父

6.聖テレーズの黙想（午後5時～午後4時）

9月30日（木）～10月 1日（金）

伊従信子師

7.召命黙想会（午後5時～午後4時） 対象:40才以下の青年男女

5月 8日（土）～5月 9日（日）

収穫は多いが働き手は少ない

九里 彰神父

8.奉獻生活者の黙想（午後5時～午前9時）

2010年度

8月 2日（月）～8月11日（水）

新井延和神父

8月18日（水）～8月27日（金）

九里 彰神父

10月12日（火）～10月21日（木）

九里 彰神父

12月27日（月）～ 1月 5日（水）

新井延和神父

・ 9.青年のための黙想（午前10時～午後5時） 男女性のため

11月 6日（土）～11月7日（日）

今泉 健神父

その他皆様が企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。

*申し込み方法

電話でも受け付けておりますが、できるだけFAXあるいはハガキでお名前と連絡先をご記入の上お申し込みください。なお、お電話でお申し込みの場合、なるべく午前9時～午後5時の間にお願いいたします。受付が休みになっている時はすぐに返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせくださるようお願い申し上げます。

宇治カルメル会 聖テレジア修道院(黙想)

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

TEL 0774-32-7016

FAX 0774-32-7457

e-mail carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp

「立ちどまって、ひとりになって、聴いてみよう！」

～都会の中の一泊静修～(2010)

この会は、現代の忙しい社会の中にあつて、また都会の中にあつて、神様との静かなひとときを過ごすために企画しました。イエス様は、「わたしは世の終わりまで、いつもあなたと共にいる。」(マタイ28:20)とされました。

ともにいるイエス様とのひとときを、都会の真ん中で過ごしてみたいかがでしょうか。

今年は、年間共通テーマとして、『混沌の時代を生きる道筋を探して』としました。

このテーマを通して、聖書のみ言葉やそれを生きるカルメルの聖人たちの言葉を通して、キリストの光を受け、混沌の時代を生きる私たちが、生きるための道筋を探していくことができますように・・・

| | | | |
|------|------------|---------------------------|---------------------|
| 第3回 | 3月22日(月)祝 | 解放への道、十戒：荒野で与えられた生きる規範 | 中川博道神父 (上野毛修道院) |
| 第4回 | 4月24日(土) | 主が教えてくださった祈りの道 | 新井延和神父 (宇治修道院) |
| 第5回 | 5月22日(土) | 聖テレジアの示した道 | 松田浩一神父 (上野毛修道院) |
| 第6回 | 6月26日(土) | 真福八端を生きる道 | 今泉健神父 (上野毛修道院) |
| 第7回 | 7月19日(月)祝 | カルメル山登攀の道～十字架の聖ヨハネの示した道～ | 九里彰神父 (宇治修道院) |
| 第8回 | 9月18日(土) | 貞潔で、貧しく従順な方イエスに従う歩み | Sr.パウリナ (宣教カルメル修院) |
| 第9回 | 10月30日(土) | 小さき道、幼いイエスの聖テレジア | Sr.ベアトリス (宣教カルメル修院) |
| 第10回 | 11月23日(日)祝 | 主が教えてくださった新しい道の道、再び甦ったように | 三上和久神父 (三馬修道院) |

※第1回終了

- * 時間 AM10:00～PM4:00
- * 場所 カトリック日比野教会(地下鉄・名城線日比野下車徒歩約5分) *聖テレジア幼稚園隣接
- * 参加費 1,000円
- * 持ってくるもの 聖書、筆記用具、ロザリオ、弁当
- * 定員 約30名
- * プログラム
 - 10:00～ 祈り・導入・黙想
 - 10:30～ 講話【1】
 - ～(赦しの秘跡または面接)
 - 12:15～ 昼食
 - ～(赦しの秘跡または面接)
 - 13:30～ 講話【2】
 - 14:45～ ミサ
 - 15:30～ 茶話会・分かち合い
 - 16:00 終了

申し込みは、下記の住所へVカキかFAXで、氏名・住所・TEL、(所属教会)を記載の上、開催日の3日前までに必着のこと。なお、日比野教会で葬式などがある場合は、中止となりますので、ご了承下さい。

☆ 名古屋カルメル靈性センター

〒456-0062 名古屋市熱田区大宝4-5-17 カルメル会日比野修道院 FAX 052-671-1825
 一日静修係 〒465-0058 名古屋市名東区真船3-2115 小林 厚・晃子
 TEL・FAX 052-701-3685

2010年度名古屋聖書深読会

第1回 5月1日(土) 新井延和神父(宇治修道院)

第2回 10月2日(土) 新井延和神父(宇治修道院)

- 時間 午前10時～午後4時
- 場所 カトリック日比野教会
地下鉄名城線日比野下車、徒歩約5分 *聖テレジア幼稚園隣接
- 参加費 ￥1000
- 持ち物 聖書・筆記用具・ノート・昼食等

* 毎回、事前に「名古屋教区ニュース」でお知らせします。

* 申し込みは、開催日の3日前までにFaxまたはハガキで下記へお願いします。信徒の方は、所属教会名も記載下さい。

* 対象は、信徒、未信徒の別を問いません。キリストの教えに関心のある方なら、どなたでも構いません。

☞ 申し込み先

名古屋カルメル霊性センター

〒456-0062 名古屋市熱田区大宝4-5-17

カルメル会日比野修道院

FAX052-671-1825

または

〒465-0058 名古屋市名東区貴船3-2115

小林 厚・晃子

TEL/FAX052-701-3685

聖書深読センターのご案内

- 1 東 京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。
- 2 宇 治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。

通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち2箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

1 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解説が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月 18,900円（4、7、10、1月に納入） 継続の場合は 16,900円

講師：九里彰師（奇数月） 新井延和師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル

私書箱 21号 朝日カルチャーセンター通信講座部

電話 03-3344-2527（直通）

2 ミニ深読

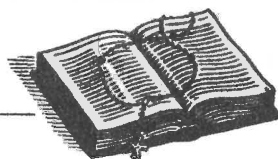
グループで2、3時間かけて聖書深読法の一部を行います。

聖書深読黙想会に参加経験のある方に限ります。

遠方に、参加希望者が多数いる場合には、有光、またはSrパウリーナが指導に行くことも可能です。

問い合わせは「聖書深読センター」事務局 Srパウリーナまでご連絡下さい。

- ◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センターにお問い合わせ下さい。



聖書深読センター

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

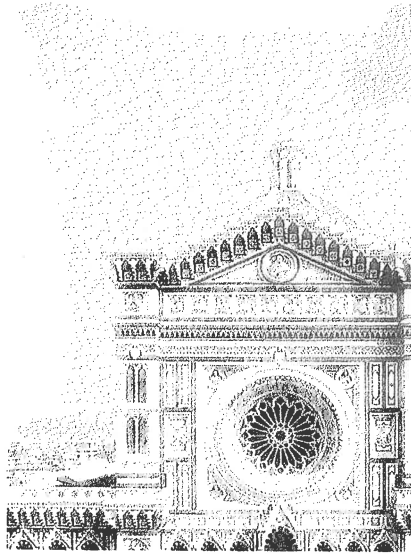
所長：奥村一郎神父 事務局長：新井延和神父 連絡先：Srパウリーナ

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-38-2543

Eメール carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp

カルメル会出版物のご案内

「観想」を読むー



2009
カルメル
特集号



特集「観に光を」
ー現代社会に発生する新しい神との出会いー

- 教会二千年史の歴史を振り返り、現代の人間と社会に十字架と本来の神を(106)いてきた教会 ー大淵義典
- 聖二ヴァツカンの全篇、聖い風雲の中にも、神のしるしを読み取る ー塚田祥夫
- 聖書と音楽、三日月の神との出会い ーわたしはこの世であなたの愛をまたからです ー高橋重幸
- 聖書と音楽、三日月の神との出会い ー聖 島江 ー中川博道
- 日本の教会の歴史 ーチェレスティーノ・カヴァーニャ

雑誌「カルメル」NO335 (2009年冬号)「今日の靈性」

- 馬屋の靈性 (4) ーイエスを拒む者と受け入れる者 …高橋重幸
- マリアの旅 (6) …中川博道
- 今日の歌 (6) …ペトロ・アロイジオ
- 「どこにお隠れになったのですか」(2)
ー十字架の聖ヨハネに見る靈的旅路 …九里 彰
- エリザベットの「魂のこだま」、ギット (1 2)
ー「生きているのはもはやわたしではない わたしのうちにキリストが生きておられる …伊従信子
- 「小さい道」の巡礼者 (7)
ーテレーズの修練者ー三位一体のマリー …中山真里
- 聖性への招き 十字架の聖ヨハネに導かれて …マリー・エウジェンヌ
編・訳 伊従信子
- 「ヨハネの黙示録」をどう読むか
ーシスター今道に導かれて …谷口正子
- 愛の断章 (1 4) …奥村一郎

雑誌「カルメル」NO33 4 (2009年秋号) 「今日の靈性」

発売中

「御胎内の御子イエスも祝せられたもう」

…高橋重幸

マリアの旅 (5)

…中川博道

今日の歌 (5)

…ペトロ・アロイジオ

「どこにお隠れになったのですか」

—十字架の聖ヨハネに見る靈的旅路

…九里 彰

エリザベットの「魂のこだま」、ギット (11)

—同じ理想を目指して

…伊従信子

エディット・シュタイン

—ユダヤ人の改宗者、そしてカルメル会の殉教者

…ベアトリス・デクンハ

「小さい道」の巡礼者 (6)

—テレーズの修練者—三位一体のマリー

…中山眞里

幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師 (26)

—マリア

…伊従信子

愛の断章 (13)

…奥村一郎

雑誌「カルメル」 2009年特集号 発売中

「闇に光を」 —現代社会に芽生える新しい神との出会い—

購読のご案内

※雑誌「カルメル」はどなたでもご購入できます。ご希望の方は、年会費 (年5冊：春夏秋冬号+特集号、送料込み) として、3000円を下記へお振込みください。

郵便振替：00190-4-195457 跣足カルメル修道会
(お問い合わせは、事務担当竹田まで。)

TEL (03) 5706-8356)

待望の再販

『自叙伝』(サンパウロ社)、

『完徳の道』『靈魂の城』(以上2冊、ドン・ボスコ社)

諸所の企画案内



心のいほり

真命山靈性交流センター

リーゼンフーバー神父キリスト教講座

ノートルダム・ド・ヴィ

ノートルダム教育修道女会

マリアの御心会

コングレガシオン・ド・ノートルダム

聖パウロ修道会

※ お知らせ

2009年・10号より、諸所の企画記事を
編集係りで集約して打ち込みました。

記載には注意を期していますが、詳細は、
念のため、各問い合わせ先にご照会ください。

また、「投稿募集」ページも、隔月程度の
掲載となります。どうぞご了承ください。

よろしくお願い致します。



諸所の黙想企画ご案内

※各黙想内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

内観黙想の予定表

2010年予定

M2 2/26(金)2時-3/4(木)2時

兵庫・売布・女子御受難会
(6泊7日)

K2 3/14(日)2時-3/20(土)2時

東京・小金井・聖霊会(6泊7日)

F1 4/16日(金)2時-4/22日(木)2時

福岡・御受難会黙想の家
(6泊7日)

N1 4/29(木)2時~5/5(水)2時

滋賀・唐崎・ノートルダム
(6泊7日)

O1 5/13(木)2時~5/19(水)2時

沖縄・伊江島・土の宿(6泊7日)

K3 6/11(金)2時-6/17(木)2時

東京・小金井・聖霊会(6泊7日)

N2 6/22(火)2時-6/28(月)2時

滋賀・唐崎・ノートルダム(6泊7日)

先の予定表と若干変わっていますので、
開始の曜日や時間などにご注意ください。

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み関西
会場は6万円、他地区は6万5千円です。

◎Eメール・ファックス・手紙でセンターに問い
合わせてください。

電話では取り次いでおりません。申し込みは
会場予約準備がありますので、10日前迄に
完了をお願いします。

◎572-0001

大阪府寝屋川市成田東町3-27
「心のいほり 内観瞑想センター」
藤原神父 FAX 072-802-5026
<http://www.com-unity.co.jp/naikan>
(ホームページ・アドレス)

予約に決まった後に、会場までの詳しい
地図などの書類をお送りします。

お知らせ

2009年10月号より、掲載スペースの関係上、
諸所の黙想企画記事を、編集部で集約して
打ち込みました。
各御担当者の皆様どうぞご了承ください。

センターニュース編集係

真命山 2010年祈りの集いのご案内

通年テーマ:教父の祈りを学ぶ

祈りの集い(毎回午前10時~午後2時半)

| | | |
|--------|-----------|--------|
| 3月11日 | 聖キュリアヌス | フランコ神父 |
| 4月 8日 | 聖アンブロシウス | ダニエレ神父 |
| 5月13日 | 聖ヒエロニュムス | フランコ神父 |
| 6月10日 | 聖アウグスチヌス | ダニエレ神父 |
| 7月 8日 | 聖アフラハト | Sr.マリア |
| 8月 | お休み | |
| 9月9日 | 聖エフラエム | Sr.マリア |
| 10月14日 | 聖ベネディクトゥス | フランコ神父 |
| 11月11日 | 大聖グレゴリウス | フランコ神父 |
| 12月 9日 | ロマノ メロドス | Sr.マリア |

指導者

フランコ・ソットコロラ神父

(真命山院長)

ダニエレ サルティ・サルトリ神父

Sr.マリア デ・ジョウルジ

申し込み先

865-0133

熊本県玉名郡和水町1391-7

真命山諸宗教対話・靈性交流

センター

TEL 0968-85-3100

Fax 0968-85-3186

E-mail: shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

個人またはグループでの黙想会や研修会も
歓迎いたします。

(要予約)



リーゼンフーバー講座・集いの案内 2009~10年度

●キリスト教入門講座

金曜日 18時45分～20時30分

聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール。どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。

●キリスト教理解講座

毎月第1・第3・第5火曜日 18時45分～20時30分 聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール。キリスト教の基礎知識を持っている方。2年間のコース。信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、キリスト教の中心的テーマを探求します。

●坐禅会

月曜日 17時20分～20時10分

木曜日 18時～20時30分

上智大学内 Kultウルハイム1階左の部屋。祝日を除く。3回座り、間に講話があります。どなたでもどうぞ。初心者も歓迎です。遅刻、不定期の参加も可。

●ミサ 水曜日 17時10分～18時

上智大学内 Kultウルハイム1階右小聖堂どなたでも。(但し、休日休)

●祈りの集い 下記の土曜日

13時30分～16時

上智大学内 SJハウス第5会議室

黙想、講話、ミサがあります。

3月6日ロザリオの祈り

同日16時10分～50分 ↗

Kultウルハイム1階右小聖堂

●黙想

【会社帰りの黙想】

毎月第2・第4火曜日 18時45分～20時
聖イグナチオ教会マリア聖堂、どなたでも。
(但し、祝日休)

【お昼の黙想】 毎月第1・3火曜日

10時40分～11時55分 聖イグナチオ教会
マリア聖堂 但し、祝日休。

【水曜日】 18時～18時30分

上智大学内 Kultウルハイム1階右小聖堂。
どなたでも。但し、祝日休。

●黙想会

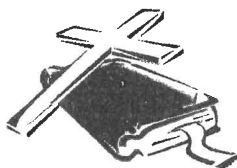
3月13日(土)10時～14日(日)15時、
上石神井。一泊5900円程度。

年度末につき、上述日程変更の

可能性があります。詳細等は、

下記、リーゼンフーバー神父様の

ホームページでご確認ください。



※リーゼンフーバー神父様HPアドレス

http://www.jesuits.or.jp/~j_risenhube/index.html/

リーゼンフーバー神父キリスト教入門・理解講座

| | |
|---|--|
| リーゼンフーバー神父キリスト教 入門講座2009年～2010年 日時 毎週金曜日 18時45分～20時30分 | 3/16 祈りの本質と霊的読書 神との心の交流 |
| | 3/30 世界に開かれた霊性 —活動における観想 |
| 2/26 仕事という人間の課題 —社会に寄与して働く | 4/ 4 復活祭のミサ (14時、上智大学内クルトゥルハイム2階) |
| 3/ 5 人間の苦悩 —悪とは何のためか | 《場所・お問い合わせ》 |
| 3/12 死—その受け入れと克服 | 聖イグナチオ教会(四ツ谷駅前) 信徒会館3階 |
| 3/13-14 黙想会 | アルペホール TEL <u>03・3263・4584</u> |
| 3/19 人生の完成 —神の内に生きる | クラウド・リーゼンフーバー神父 102-8571 千代田区紀尾井町7-1 上智大学SJハウス |
| 3/26 聖母マリア—信じる者の原型 | |
| 4/ 4 復活祭のミサ (14時、上智大学内クルトゥルハイム2階) | 電話 03-3238-5124{直通} —5111{伝言} Fax 03-3238-5056 |

リーゼンフーバー神父キリスト教

理解講座2009年～2010年

日時 第1・3・5火曜日
18時45分～20時30分

(2/16以降のテーマ「信仰生活」)

3/ 2 秘跡の恵み
—たえざる回心と
キリストのいのちの深まり

3/13-14 黙想会



※リーゼンフーバー神父様HPアドレスhttp://www.jesuits.or.jp/~j_risenhube/index.html/

いのちの泉へ（ノートルダム・ド・ヴィ）

●「いのちの泉へ」 すべての人のための祈りの集い

カルメルの霊性に学びつつ、キリスト者としての霊性を養うための講話と、沈黙の祈りで構成された集いです。カルメルの霊性を、より深めたい方のグループと、若い方、基礎的な信仰を学びたい方のグループがあります。

申し込み・お問い合わせ
ノートルダム・ド・ヴィ
177-0044
練馬区上石神井4-32-35
TEL(03)・3594・2247
Fax(03)・3594・2254
E-mail notredamedevie.japan@gmail.com

2010年3月13日(土)
次々回の予定 4月24日(土)

講話 伊従信子
午後2時～午後5時30分位まで、
講話、祈り、分かち合い。
参加費 200円

カルメル会の霊性を受け継ぐノートルダム・ド・ヴィ(いのちの聖母会)は、現代社会のあらゆる場で社会人として働きながら、神への全き奉獻を通して、祈りと活動の一致を生きることを、その精神・理想としています。



●四旬節特別企画 講話と祈りの集い

『聖週間を「生きる」ために ～幼きイエスのマリー・エウジェヌ神父と共に～』
講話 エマヌエル・ヒルシャワー神父（ノートルダム・ド・ヴィ司祭）

日時:3月28日(日) 午後2時から6時位まで
内容:講話、祈り、質疑応答等
参加費 200円

申し込み・お問い合わせ
ノートルダム・ド・ヴィ
177-0044
練馬区上石神井4-32-35
TEL(03)・3594・2247
Fax(03)・3594・2254
E-mail notredamedevie.japan@gmail.com



ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

◎所在地

〒520-0106

滋賀県大津市唐崎1丁目3-1

Tel 077-579-7580

Fax 077-579-3804

E-メール karainorind92@mbe.nifty.com

◎交通

JR京都駅から湖西線で三つ目

「唐崎」下車。琵琶湖の方へ徒歩13分

◎日程

A. 8日間の個人指導による黙想

初日は、17時のミサで始まり、最終日は昼食で終わります。

- ③ 4月28日(水)～5月6日(木)
- ④ 6月21日(月)～6月29日(火)
- ⑤ 8月11日(水)～8月19日(木)
- ⑥ 9月3日(金)～9月11日(土)
- ⑦ 10月1日(金)～10月9日(土)
- ⑧ 11月2日(火)～11月10日(水)

※①、②終了

B. 祈りの体験：週末3日間

(金曜日の夕食～日曜日の昼食)

【神との親しさの中で日常を生きるために】

2010年

- ④ 2月26日(金)～2月28日(日)
- ⑤ 3月5日(金)～3月7日(日)
- ⑥ 3月12日(金)～3月14日(日)
- ⑦ 4月9日(金)～4月11日(日)
- ⑧ 4月30日(金)～5月2日(日)
- ⑨ 5月14日(金)～5月16日(日)
- ⑩ 5月21日(金)～5月23日(日)
- ⑪ 6月25日(金)～6月27日(日)
- ⑫ 7月9日(金)～7月11日(日)
- ⑬ 8月13日(金)～8月15日(日)
- ⑭ 9月3日(金)～9月5日(日)

- ⑮ 9月17日(金)～9月19日(日)
- ⑯ 10月1日(金)～10月3日(日)
- ⑰ 10月22日(金)～10月24日(日)
- ⑱ 11月5日(金)～11月7日(日)
- ⑲ 11月26日(金)～11月28日(日)
- ⑳ 12月10日(金)～12月12日(日)

(他の黙想会が行われている場合があります。)

※①～③終了。

C. 講話 黙想(奉獻生活者のため)

- (21) 5月27日(木)～6月3日(木)

植栗 彌 師 (イエズス会)

◎ 対象：信徒、修道者、司祭、
洗礼を受けていない方、
どなたでも参加できます。

◎ 霊的同伴者：

菊池 陽子(ノートルダム教育修道女会)

松本 佳子(ノートルダム教育修道女会)

その他 若干名

◎ 申込み：

1) 名前 2) 住所 3) 電話番号 4) 希望
日程(番号)を書いて郵送、または、Faxで
「黙想係」松本佳子へ申し込んでください。
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、
その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10日前までに申し込んで
ください。先着順11名です。

その他：

受付(チェック・イン)は、いずれの場合も、
初日の15時から16時45分まで。

問い合わせは、電話、または、E-メールを
ご利用ください。

※各黙想内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

マリアの御心会・信濃町共同体

タイトル:「来て、見なさい」プログラム

私が私らしく生きるために ～自分の将来を真剣に祈る～

内容) 一日黙想会と2泊3日黙想会を1シリーズとし、自分の将来について集中して祈り考える企画。

第2回 3月14日(日) 森 一弘 司教
—おことばのとおり、この身になりますように—「私に与えられた使命は何？」

第3回 4月18日(日) 塩谷恵策 神父(イエズス会)
—私があなただを選んだ—
「わたしの呼ばれている道は？結婚・独身・修道生活」

第4回 2泊3日黙想会
5月 1日(土)～3日(月) 英 隆一郎 神父(イエズス会)
「私が私らしく生きるために」
—自分の将来を真剣に祈る—

※第1回修了

場所: 第1回～3回 10時～16時 マリアの御心会信濃町共同体
会費1,000円(昼食付き)

第4回 5月1日(土)15時～5月3日(月)15時
長野県富士見 マリアの家(マリアの御心会・山の家)
場所は変更の可能性もあり。

対象: 40歳前後までの独身女性

申込締切: 第1～3回は、開催日の3日前まで。

第4回宿泊黙想会は、4月16日(金)まで。

※各回ごと、黙想会のみ参加も可能ですが、出来るだけ継続的な参加をお勧めします。

申込方法: 電話にて マリアの御心会信濃町共同体
電 話: 03-3351-0297

コングレガシオン・ド・ノートルダム調布修道院

テーマ：「聖霊きてください」

指 導： 幸田 和生 司教様(東京教区補佐司教)

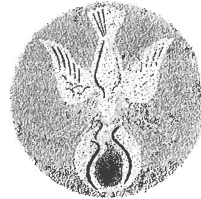
日 時： 5月22日(土) 10:00~16:00
受 付 9:30~

場 所： コングレガシオン・ド・ノートルダム調布修道院
〒182-0034 調布市下石原3-55-1

対 象： 男女・年齢を問わず、どなたでもどうぞ。

会 費： 2,000円(お弁当代を含む)

申込み： 5月15日(土)まで。
電話 0424-82-2012
FAX 0424-82-2163



定 員： 80名まで受付けます。

主 催： コングレガシオン・ド・ノートルダム アソシエート

- ※当修道院は、新宿より京王線で、調布駅下車。
 - 南口から徒歩で20分。
 - タクシーで5分。
 - マルガリタ幼稚園と同じ敷地内です。

テーマ:

「青年召命黙想会」—主よ、なぜこの私を!?

対象: 自分の道を探している18~35歳までの独身男性

日時: 2010年4月10日(土)午後1時 ~ 11日(日)午後1時

場所: 聖パウロ修道会 若葉修道院

指導: 澤田豊成神父(聖パウロ修道会)

参加費: 3,000円

締切日: 2010年3月31日(水)



申込み・問合せは

〒160-0011

東京都新宿区若葉1-5

聖パウロ修道会

TEL 090-8583-4141(携帯) FAX 03-3351-8606

E-mail: ssp-voc@sanpaolo.or.jp(担当: 山口神父)

近刊紹介

リジューの聖テレーズはカトリック教会で最も親しまれている聖人の一人で、宣教の保護者ともされています。この書は、テレーズが愛した人びとと、テレーズを愛した人びと11人が、どのように心の深みでテレーズと響きあっていたかを見つめながら、その11の愛の道を洞察しています。聖母、十字架の聖ヨハネ、パウロ、三木露風、宮沢賢治、マリー・エウジェヌヌ ocd、マザー・テレサなど、それぞれの独自の愛が心にのこる信仰の書。

テレーズを 愛した人びと



伊従信子

Iyori Nobuko

テレーズと魂の奥深くで響きあった
11人の愛の道

マザー・テレサ、三木露風、宮澤賢治、
三位一体のエリザベット、テレーズが愛した聖母、
十字架の聖ヨハネ、使徒パウロほか

女子パウロ会◆定価(本体1,400円+税)

三月発売 伊従 信子著 女子パウロ会

214ページ 1400円 + 税

『靈性センターニュース』郵送ご希望の方

下記まで、郵送ご希望の月数分×220円を現金で送ってください。切手では受け付けておりません。これは、あくまでも郵送代実費です。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

カルメル会上野毛修道院 「靈性センター事務局」

「上野毛靈性センターへの献金」のお願い

「靈性センターニュース」は、現在、上野毛靈性センターで編集、印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担しております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。

* 献金される方は、下記の口座へお振り込みください。

郵便番号口座： 00110-4-297250

加入者名： カルメル靈性センターニュース

なお通信欄へは「献金」とご記入ください。これは、上記の郵送代ではなく、献金として取り扱わせていただきます。



編集後記

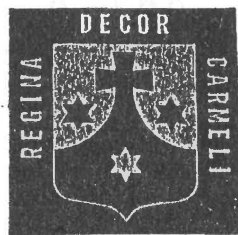
すっかり春めいてきた。毎年繰り返される季節の移り変わりの中に、生きとし生けるものを温かく支えておられる神の働きが感じられる。

十字架の聖ヨハネは、自然の中で念祷することを好んだと言う。それは、自然と共存し、自然と共に生活してきた日本人の感性にも相通するのではなからうか。

詩編の中にも、自然の営みが神の計らいとして歌われている。自然の中で、自然を通して祈ること、神に賛美と感謝をささげることが、私たちはもう少し工夫したらどうであろうか。

主は月を造って季節を定められた。太陽は沈む時を知っている。あなたが闇を置かれると夜になり、森の獣は皆、忍び出てくる。若獅子は餌食を求めてほえ、神に食べ物を求める。太陽が輝き昇ると彼らは帰って行き、それぞれのねぐらにうづくまる。人は仕事に出かけ、夕べになるまで働く。(詩 104・19-23)

(P. 九里)



あなたにもできる

「靈性センターニュース」の製本が、毎月第四火曜日（原則）に行われていますが、製本作業には、どなたでも参加していただくことが出来ます。初めての方、不定期参加の方も、大歓迎です。一緒にご奉仕をお捧げしましょう！！

「4月号」製本日

3月23日（火）

上野毛教会信徒会館ホール1階
午後1時半頃から～

※参加希望の方は、念のため、製本日をご確認下さい。靈性センター係

TEL 03・3704・2171